

【テーマ】

□ 母親に監視されていた年頃の娘たち - その(2)  
↳ 母子関係にみる奈良時代の恋愛事情↳



公民館だより

2018年10月26日(金)

番外編・第8号

奈良市生涯学習財団 二名公民館

館長 上田善紀・発行

■ 前号では、よばいをした男が女性のお母さんに見つかってこっぴどく怒られ、部屋から追い出された歌、女性の母親から、まるで田んぼを荒らす鹿や猪いのしし同然に思われている男の憤懣ふんまんやるかたない恨み節の歌などを紹介しました。さて、その第2弾です。

□ 「娘の気持ち」―「あなた、あせらないで…」

たらちねの 母ははに障さらば いたづらに 汝おまへも我も 事ことのなるべき

作者未詳 卷十一―二五―七

♡ 母さんに邪魔されたら、あなたも私も、せつかくの仲がだめになってしまおうでしょう。

♡ 【解説】…この女性の恋人(男)は、どうも交際をあせっているようです。そんな男の短慮たんりょをたしなめている、しつかり者の女性の歌です。「障らば」は気に障る、喫煙は健康に障る、耳障りなど、現代でも使う言葉です。「母に障らば」には切迫感がありますね。言い換えれば、「母の逆鱗さかさなに触れたら…」ということでしょう。

□ 「娘の気持ち」―女性の気持ちが高揚して男にモーションかけています。

あしひきの 山沢やまざはゑぐを 摘つみに行かむ 日だにも逢はせ 母は責むとも

作者未詳 卷十一―二七六〇

♡ あの沢のえぐを採りに行くその日だけでも、せめて逢ってくださいな。母さんが私をたとえ責めようと…。

♡ 【解説】…何とか逢う機会をもちたいと、男に誘いをかけている歌です。「ゑぐ」とは沼地に生える草で、根や茎を食用にしていました。ゑぐの根を掘り採るのは女の仕事でした。自分の予定をいって男を誘っています。

たらちねの 母に知らえず わが持てる 心はよしゑ 君がまにまに

作者未詳 卷十一―二五三七

○ 母さんに知られないようにして私がじっとしまっている心、この心は、  
○ もうよろしゅうございます。あなたの思い通りにいたします。

△ 【解】 …「わが持てる心は」とは、「じっとしまっている気持ち」というこ  
とです。その気持ちを「よしゑ」（＝ええいつ、ままよ）と、秘め  
た恋心が抱えきれなくなりました。吹っ切れたのですね。

筑波嶺の 彼面此面に 守部据ゑ 母い守れども 魂そ合ひにける

作者未詳 卷十四―三三九三

○ 筑波嶺の向こう側にもこっち側にも番人を据えて山を守るように、母さ  
んが見張っているけれど、なんのその、二人の魂は通じ合ってしまった  
よ、あなた…。

△ 【解】 …「彼面此面」とは、あちらの面こちらの面、つまりは四方八方。  
四方八方に番人をおいて山を守るように、母親が厳重に娘に近づ  
く男を監視しているわけです。ということは、最早相思相愛とな  
った関係を、この母親は察知しての厳重な監視をしていると考え  
られます。よほど、この男のことが気に入らなかつたんでし  
ね。恐るべし母親！

桜麻の 麻生の下草 露しあれば 明かしてい行け 母は知るとも

作者未詳 卷十一―二六八七

○ 桜麻の麻島の下草は、露で濡れていますから、夜を明かしてお帰りなさ  
いな。たとえ、母さんが気づいてもかまいません。

△ 【解】 …暗いうちに男が帰っていくのを惜しんで、引き留める女の歌。  
「母は知るとも」、もうお母さんにわかつてしまってもいいから…  
完全に開き直っていますね。この男は、朝までいたのでしょうか。  
それとも、深夜に帰っていったのでしょうか。ちよつと気になる  
ところですね。

□ 「娘の気持ち」さらには…、娘も必死！家に招き入れる女の合図を考えました

奥山の 真木の板戸をとどと押し 我が開かむに 入り来て寝さね

作者未詳 卷十四—三四六七

○ 奥山に茂る真木で作った板戸、この板戸を私が軽くたたいてごごとと押し開けたらさつと中に入ってきてね、そして一緒に寝てくださいね。

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ 【解説】…「真木の板戸」とは、檜や杉など立派な木で作られた板戸。当時はすれば、さぞかし大きな家だったことでしょう。「とごとと押し」は板戸を軽くたたいてごごとと押しして…、男を部屋に招き入れる合図の描写が具体的ですね。ちよつと緊迫感があります。

□ 「娘の気持ち」娘も男にぞつこん惚れて、いじらしい歌・5題

たらちねの 母に知らえず 我が持てる 心はよしゑ 君がまにまに

作者未詳 卷十一—二五三七

たらちねの 母にも言はず 包めりし 心はよしゑ 君がまにまに

作者未詳 卷十三—三二八五

○ 母さんにさえ言わないで包み隠していた心、この私の心は、もう何が何でもあなたの思いのままです。

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ 【解説】…2首はほとんど同じ意味です、類想歌といえます。実は、万葉集にはこのようによく似たつくりの歌の例がいくつかあります。それにしても、「君がまにまに」（＝あなたの思いのままに）なんて、いい感じじゃないですか、男性諸氏のみなさん。

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □

駿河の海 磯辺に生ふる 浜つづら 汝を頼み 母に違ひぬ

作者未詳 卷十四—三三九

○ 駿河の海の磯辺でどこまでも延びていく浜つづらのように、ずつとあなたを頼みにし続けて、母さんと仲たがいでいしてしまいました。

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ 【解説】…「浜つづら」は、海岸に生えるハス、ハカヅラといわれています。

御佩かしを 剣の池の 蓮葉に溜まれる水の ゆくへなみわがする時に  
逢ふべしと逢ひたる君を な寝ねそと 母間こそども わか情 清隅の池の  
池の底 われは忘れじ ただに逢ふまでに

作者不詳 卷十三—三二八九

〇 剣の池の蓮の葉に溜まって転がる水玉が、どちらへも流れていけないように、私がどうしてよいのか途方にくれている時に、私たちは逢うべき定めなのだと逢ったあの方なのに…、一緒に寝てはいけないと母さんはおっしゃるが、私の心は清隅の池のように清く澄んで、ご心配などいりません。その池の底のように心の底から思っている私は、決して忘れません。もう一度、じかに逢えるその時まで。

〇 〇 〇 〇 〇 〇

△【解説】…「剣の池」は橿原市にあるハスで有名な池です。「清隅」は、奈良

市高樋町にある池。今でも「清澄の里」という別名が残っている

ところですが、池に寄せた歌がこのほか3組続きます。すべて、大和国の地名を折り込んでいたので紹介しました。

玉垂の小簾の隙に入り通ひ来ね たらちねの母が問はさば 風と申さむ

作者未詳 卷十一—二三四

〇 すだれのこの隙間にそっと入って通ってきてくださいな。母さんが何の音かと尋ねたら、「風」と申しましよう。

□ 「母への告白」最後に、私が男の立場で選んだ、ほっとできる歌で締めくくります

かくのみし 恋ひば死ぬべみ たらちねの 母にも告げつ やまず通はせ

作者未詳 卷十一—二五七〇

〇 こんなに恋い焦がれてばかりいたら死んでしまいうので、思い切つて母さんにあなたとの仲を打ち明けました。(もう大丈夫よ、あなた) 毎日通ってきてください。

〇 〇 〇 〇 〇

△【解説】…ヤッタね!!、この男、彼女のお母さんからお許しが出たみたいですよ。娘の、母親への訴えが母親の気持ちを溶かしたのでしようか。こんなラッキーな例は、ほとんど見当たりません。

※ 母親監視の歌はまだまだあるのですが、きりがないのでこの回で終えます。

※ 前号で「今回紹介する万葉歌は東歌といわれるもの」と記しました。実に丁寧さに欠ける説明でした。正しくは、卷十四の歌のみが東歌です。恥じ入りながら補足します。